NPO 法人　日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
― JSPON ―
News Letter　Vol.15

ゴールデンウィークも明け、新年度の喧騒もそろそろ落ち着いたころでしょうか。日本小児がん看護研究会として発足した本学会は、今年で 10 周年を迎えます。ホームページなどですでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、９月に 10 周年記念事業を開催しますまた、例年 8 月末に開催している研修会は行わず、12 月の学会の中で症状マネージメントに関するワークショップを開催する予定です。記念セミナー・学会共に関東圏での開催となりますが、北海道から沖縄まで、是非多くの皆様のご参加頂ければ幸いです。

今回のニュースレターでは、第 10 回日本小児がん看護学会、10 周年記念事業のお知らせに加えて、第 9 回学会の報告、近畿小児がん研究会看護部門講演会の報告をさせて頂きます。尚、第 10 回学会の演題締切は 6 月 21 日（木）です。演題登録には会員番号が必要です。会員の方で、演題を登録される方は 5 月 31 日（木）までに平成 24 年度会費を納入して下さい。また、未入会の方は、5 月 31 日（木）までに入会手続きと、会費納入を済ませてください。詳細については、第 10 回学会のホームページにて確認してください。

（http://www.jspho.jp/2012yokohama/）

10 周年記念セミナーのお知らせ

日本小児がん看護学会は、本年で創立 10 周年を迎えます。そこで、10 周年記念事業としてイブニングセミナー（9 月 14 日（金）の 18 時～21 時）および、記念講演会（9 月 15 日（土）10 時から 16 時 30 分）を開催する予定です。14 日のイブニングセミナーは会員 6000 円、非会員 7000 円です。以下のどちらかをお選びください。1.リーダーナースのための小児がん化学療法講座「分子標的薬最前線」分子標的薬について短時間集中で効率よく学びます。特に院内教育等や伝達講習のできるリーダークラスの皆さまにご参加いただきたい内容です。2.小児がん専門看護師のスーパーバイズによる事例検討会「広げよう小児がん看護ネットワーク☆深めよう事例への看護」限定 30 名のみで、複雑高度な問題をもつ小児がん患者について事例発表を 3 施設から行います。質疑応答・ディスカッションを通して、施設を超えたネットワークづくりを目指しています。

翌 15 日の 10 周年記念講演会は会員 5000 円、非会員 6000 円となります。10 時からの午前の部では、小児看護専門看護師による「子どもの死をめぐるケア」の教育講演を行います。その後、指定講演「子どもに苦痛の少ない医療用テープの使い方」と題し、実際に使用して困難を要した事例の紹介と医療テープメーカーによるプレゼンテーションから、子どもに苦痛の少ないテープの使い方の理解を深めたいと思います。午後には 10 周年記念式典と「仕事と家庭、そして人として：小児がんの子どもの父親へのケア」と題したシンポジウムを開催いたします。聖路加国際病院細谷亮太先生による父親支援のご講演、実務経験豊かな社会保険労務士による父親の介護休暇取得をめぐる現行法の解説と問題点、さらに看護師や父親当事者のご登壇をお願いしています。司会の東北大学塩飽仁先生を含めて壇上全て男性のみ。ご期待下さい。10 周年記念イブニングセミナー・講演会共

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、1 月～12 月となっております。4 月に会員の皆様には会費納入に関する書類を送付いたしました。振込みがお済でない方は、早めにお願いいたします。

年会費の納入に関しては、ニュースレターをお送りした封筒をご確認ください。年会費の未納の方の宛名ラベルには星印が記載されています。
1 年未納の方は☆一つ、2 年未納の方は☆二つとなっています。星印のあった方は早急にお支払いいただきますようお願いいたします。なお、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

〔会費振込み先〕
郵便振替口座：0059-9-79689
名称：特定非営利活動法人　日本小児がん看護学会
〔事務局〕長野県看護大学小児看護学　内田雅代
TEL/FAX：(0265)81-5184・5186
E-Mail：office@jspon.com

〔平成23年度会計報告〕

〈一般会計　収入の部〉

項目	決算額（円）	内訳
会員年会費	3,314,000	21 年度分¥5,000×1 名 22 年度分¥7,000×32 名 23 年度分×441 名
事業収入	232,508	研修会
寄付金	0	
雑収入など	48,641	学会誌販売、受取利息
前期繰越収支差額	5041,442	
計	8,636,591	

〈一般会計　支出の部〉

項目	決算額（円）	内訳
事業費	2,145,372	学術集会、抄録集・学会誌発行、広報活動、教育活動など
管理費	728,722	会議費、通信費など
計	2,874,094	

収入	8,636,591
支出	2,874,094
収支	5,762,497

〔小児がん看護学会誌編集委員会より〕

本会誌は、毎年９月に発刊を行っております。2 月末までに投稿されたものはその年の９月に掲載予定です。それ以降に投稿されたものは翌年に掲載予定となります。但し、年間を通じて投稿を受け付けておりますので、より多くの方に日々研鑽されている成果を是非ご発表下さい。日本小児がん看護学会誌投稿規定（平成 22 年度 7 月 24 日施行）は HP でご覧頂けます。
学会 HP：http://www.jspon.com

おしらせ

SIOP2012

今年の国際小児腫瘍学会（SIOP2012）は、ロンドンにて10月5日～8日の日程で開催されます。http://www.siop2012.org/

学会の前に施設での研修を検討しています。(ロンドンとリーズでの病院見学を調整中)　詳細が決まり次第、ホームページでお知らせします。研修にご興味のある方、ご要望のある方は、担当までご連絡下さい。研修には、通訳もつきますので、是非臨床の方もご参加下さい。

（淑徳大学　小川：junogawa@soc.shukutoku.ac.jp）

第6回近畿小児がん研究会看護部門講演会

日時:平成24年6月23日(土)時間:午後14時から16時頃
場所:三宮グランドビル2階　第3会議室
神戸市中央区磯上通2丁目2-21
講師:田村恵美さん（筑波大学附属病院小児看護専門看護師）
テーマ:「小児がん患者の家族における家族看護エンパワーメントガイドラインの臨床での活用」　当日参加費…500円
参加ご希望のかたは、2週間前までにお知らせ下さい。参加施設と参加者氏名を、小倉宛に連絡をお願い致します。
（神戸大学病院 小倉美知子michikado812@yahoo.co.jp）

平成 24 年度　理事・監事

理事長:梶山祥子
副理事長:丸光惠、小倉美知子
理事:浅田美津子、石川福江、内田雅代、小川純子、小原美江、上別府圭子、塩飽仁、富岡晶子、野中淳子、前田留美、森美智子、
監事:藤原千惠子、吉川久美子
庶務:内田雅代
会計:石川福江、河上智香
広報:小川純子、小原美江(ニュースレター)
富岡晶子、前田留美(ホームページ)

平成 24 年度　委員会

研究委員会:内田雅代，小原美江
学会誌編集委員会：野中淳子、森美智子、米山雅子
和田久美子、岡澄子
教育委員会:淺田美津子、梶山祥子、竹之内直子、
小川純子，前田邦枝
将来計画委員会:丸光惠、塩飽仁、前田留美、梶山祥子、
小倉美知子、上別府圭子
国際交流委員会:梶山祥子、丸光惠
10 周年記念事業実行委員会:丸光惠、塩飽仁、
前田留美、梶山祥子

事務局:白井史、足立美紀、岡村　知香
〒399-4117
長野県駒ヶ根市赤穂 1694
長野県看護大学　発達看護学講座　小児看護学分野

日本小児がん看護研究会ニュースレター担当
淑徳大学看護学部　小児看護学　　小川純子
千葉県こども病院　看護局　　小原美江

［連絡先］
〒260-8703 千葉市中央区仁戸名町 673
E-mail：junogawa@soc.shukutoku.ac.jp
（小川）

に、会場の都合上、事前のお申し込みが必要です。詳しくは学会ホームページ（http://www.jspon.com）をご覧ください。

お申込は先着順で、ご入金後に登録確定となります。人数も限られておりますので、お早目のご登録・ご入金をお願い申し上げます。　　（担当：丸光恵）

第 10 回　日本小児がん看護学会のお知らせ

日本小児がん看護学会は第 10 回を迎え、全体テーマ「共存の医学・協調の医療」のもとに看護テーマ「未来を拓く小児がん看護のパラダイムシフト」を掲げて、11 月 30 日（金）～12 月 2 日（日）、パシフィコ横浜国際会議センターで開催されます。日本小児血液学会・小児がん学会との合同開催も 9 回を数えることとなり、この間、がん対策基本法の制定、がんプロフェッショナル養成プランの整備など、がんの治療、ケアは大きく前進しました。しかし小児がんについてはそれらに十分盛り込まれず、今、ようやく目が向けられ、その充実に向けて歩みが始まったばかりです。今後小児がんの治療研究と医療制度が一層充実し、子どもたちと家族が質の高いケアを受けられるようになるために、看護の役割に対する社会の期待が大きくなっています。

今回の学会ではシンポジウム１として「多職種協働チームにおける看護師の役割と機能～現状と課題～」シンポジウム２として「思春期・青年期の患者が自分らしく療養生活を送るために」のテーマで現状と課題を明らかにしたいと考えております。また特別講演として SIOP 前看護部会長、英国の Dr Faith Gibson に家族と専門職がどのように連携してゆくか、英国の現状を踏まえてお話しいただく予定です。２日目のイブニング・セッションでは英国の Advanced Practice Nurse の小児がんケアにおける役割とその教育についても講演していただきます。ワークショップは「下部消化管粘膜・皮膚障害へのケア」のテーマで開催します。また小児がん看護の実践・研究の成果を報告していただき、活発な意見交換をしてゆくために多くの皆様方からの演題申込みとご参加をお待ちしております。

「放射線被ばくと子どもの健康」「動き出した小児がん医療」などの企画もあり、質の高いケアの実現のために、小児がんにかかわる専門職として互いの専門性を尊重しつつ連携する方策を見出してゆく学会となることを期待しております。国際都市横浜で楽しみながら、実り多い研鑽と情報交換の場となることを願いつつ皆様と横浜でお目にかかることを楽しみにしております。

第１０回日本小児がん看護学会会長　梶山祥子

第９回小児がん看護学会の報告

第９回日本小児がん看護学会は、2011 年 11 月 25 日～27 日に群馬県で開催されました。日本小児血液学会と日本小児がん学会が統合され初めての学会で、医師の参加者が多く盛況でした。3 日間の看護師の参加者は 387 名、医師・看護師以外の職種が 233 名でした。

演題数は 55 題で、口演・示説とも会場はほぼ満席でした。　教育講演は、小児がんの子どもの社会福祉・社会保障に目を向け、芝田英昭先生に、ご自身の経験をふまえわかりやすく講演していただきました。また、あまり聞くことができないがん経験者の父親としての思い、病気を抱えながら成長する子どもの気持ち、家族の絆、看護師への要望を語っていただき心に残りました。井上玲子先生には、小児がん診療体制と看護師の役割について講演をお願いし、日本のがん対策の法案の概略と小児がんの施策の取り組みについて力説していただきました。現場にいる私たちが理解を深めることの重要性を感じました。医師と看護師の合同企画では、現在緩和チームとして活動している方々に発表していただき、小児緩和ケアの普及と発展について討論しました。まだ実現できていない施設が多く、一歩を踏み出すきっかけになったのではないかと思います。

シンポジウムでは、昨年に続き子どもがワクワクする療養環境について、職種を超え熱い思いを語っていただきました。数少ない CLS の佐々木美和さんは、発表後マスコミのインタビューを受けておりました。また、東日本大震災の被災状況を報告していただきました。家族の「大丈夫ですか」に医療者が安心を届けられない切なさ、もどかしさを実感したと言われたことが印象的でした。ワークショップでは、口腔ケアについて参加者参加型のワークショップを企画しましたが、事前のアピール不足でした。公開シンポジウムは、「子どもの学ぶ権利について」討論しました。教育者と保護者の「学ぶ」ことの考えを聞き、当たり前ですが「学ぶ」ことの大切さ、「学べない」子どもの存在を再認識しました。今後も子どもたちの笑顔のために、今できることを実践しなければと思いました。

群馬県立小児医療センター　下田あい子

第 34 回近畿小児がん研究会の報告

平成 24 年 3 月 10 日（土）に大阪大学銀杏会館（大阪大学吹田キャンパス内）で開催された。参加者は医師約 80 名、看護師 64 名と守る会の計約 170 名。テーマは、『AYA（Adolescence and Young Adult）世代のがん』。小児と成人の狭間の世代のがん患者特有の問題が残っており、どこでどのように治療すべきか？療養環境をどのように整えるのか？告知の方法、場所、タイミングは？進学、就職、恋愛、結婚などこの世代特有の問題をどうサポートするか？緩和医療はどうあるべきか？を考える機会となった。招待講演として、米国で AYA の先進的な臨床・研究をしている Oregon Health and Science University の Rebecca Block 氏。特別講演は、京都府立医科大学小児外科の田尻達郎氏が「QOL を重視した小児がんに対する外科治療」。看護部門では、一般演題の他に、京都大学大学院の清川加奈子氏による米国視察研修報告。がんの子どもを守る会との合同シンポジウムでは、医師から小児がんと成人がんの境界領域(AYA 世代)のがんの特徴と問題点。看護師からは必要な看護支援について。ホスピタルプレイ士からは療養環境(青少年ルーム：中学生以上の児の部屋)について。そして治療経験者は闘病体験を語る発表があった。医師の一般演題で AYA 世代の症例報告では、治療に対するコンプライアンスや心理・社会面に苦慮した症例や、緩和医療での問題、他職種と連携をとりながら苦慮した症例もあり、AYA 世代のがん診療の問題が出されていた。看護でも療養環境の工夫やプライバシーの確保、社会とのつながり(就学や就職)、個性の理解と尊重、不妊症など AYA 世代は多岐にわたる問題を抱えており、改めて難しさを感じたと同時に　、今後の課題も示唆された有意義な研究会であった。

（近畿小児がん研究会看護部門代表
神戸大学医学部附属病院　　小倉美知子）

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

平成23年度　研究委員会活動報告

研究委員会では、平成21-24年度科学研究費補助金基盤研究（B）をうけ「小児がんをもつ子どもと家族を中心とした多職種協働チームの看護師支援プログラムの開発」をテーマに、3つの班に分かれ活動した。

1）『小児がん看護ケアガイドライン』検討班

小児がん看護ケアガイドラインの改訂に向けて、これまでの研究成果や文献等からガイドラインの「骨子」の検討を行い、新たに「基本的知識に関する項目」を設け、ガイドライン全体をケアマップとして図式化し、各章および「基本的知識に関する項目」の執筆者について検討した。また、平成22年度日本小児がん看護学会研修会の参加者を対象に実施した「小児がんの子どもの悪心・嘔吐に関する看護師の認識」に関する調査結果および、第8回日本小児がん看護学会参加者を対象に実施した「小児がんの子どもの口腔ケアへの看護師の関わり」の調査結果をまとめ、第9回日本小児がん看護学会にて発表した。

2）『看護のエビデンス』に関する検討班

平成22年度末に全国の小児がんの子どもが入院している206施設の病棟・外来師長および看護師を対象に実施した、長期フォー-アップに関する看護とグリーフケアおよび看護師へのメンタルサポートに関する質問紙調査の結果をまとめ、「小児がん治療終了者への看護の実態」「小児がん経験者への看護に関する看護師の認識」「終末期の小児がん患者のケア体制および看護師へのメンタルサポートに関する看護の実態–病棟管理者への調査より–」「小児がん患者の死を経験した看護師が望むメンタルサポート」の4題を、第9回日本小児がん看護学会にて発表した。

3）『多職種協働チームにおける看護師の役割』検討班

小児患者のチーム医療の中でコーディネーターの役割をとっている看護師を対象に、チームの現状、看護師の役割や取り組みの実際などについて、面接調査を実施している。

今後、これらの調査結果からどのような看護の指針が求められているかについてさらに検討し、ガイドライン改訂の資料としていきたい。（担当：内田雅代）